

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス あいるぶらす		
○保護者評価実施期間	令和6年 11月 6日		令和6年 12月 6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21 (回答者数)	17
○従業者評価実施期間	令和6年 11月 15日		令和6年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 (回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年 12月 14日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	自立に向けて室内だけでは経験できない、室外での「体験型」の活動を多く取り入れている。	見学に行かせていただいたところでは、みなでお礼の手紙を書いて、「感謝」の気持ちを持てるように取り組んでいる。	手話やブラッシング指導など外部から先生に来ていただき、普段経験できないことも取組みつつある。
2	低学年から中学生以上の幅広い異年齢の中での関わり方を持つことができる。	低学年→お兄さん、お姉さんに頼って、色々なことを自分から教えてもらう。 高学年→年下の子を気にかけて声かけや遊びに誘ったりと優しさが芽生える。 このような関係性が保てるように声かけを行っている。	他事業所との交流もし、子ども同士が楽しみながらコミュニケーションもとれるようにしていく
3	日々の活動が固定化されないようにしている。	・指先を使う活動。 ・イメージできる活動。 ・お友だちのいいところを伝える活動など幅広く取り組んでいる。	誕生日には、その子のやりたい活動をみんなで取り組んでお祝いしている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	室外での体験型活動が多いため1日中室内でゆっくり過ごす事を希望される場合は、できるだけお応えはしたいが難しい場合もある。	小さな集団の中で、みんなと一緒に行動ができるようになることも自立に向けて大切な事だと感じている。	室内のほうが落ちついて過ごしやすい場合は、引き続きできる限り要望に応えさせて頂きながら少しずつでも外での体験にも興味をもてるような声かけ等を行っていく。
2	異年齢の中で、高学年のやりたい事と低学年のやりたい事が違う。(高学年がガマンしがち)	年齢によって、できる事が限られる。	例えば、創作などは低学年ができる場所、高学年ができる場所と分けて取り組んでいる。 高学年の話もしっかり聞きとりストレスにつながらないように関係性を作っている。
3	支援室が2階のため足にリスクがあると利用しにくい。	2階にあるため。	手すりはあるため、つかまりながらゆっくり上り下りするよう声かけをしている。